

私のモチーフ

東京 石橋 俊博

示現会の展覧会に作品を出品するようになって二十六年が経ちました。絵のモチーフは人物、静物、イーゼル、キャビネット、自画像など身近にあるものを題材にしています。最近はずっと食卓をテーマに描いています。

示現会の展覧会に絵を出すようになったのは示現会研究所に通っていたからです。最初に入選したのは研究所で描いた人物画でした。

四年か五年人物画を描いていました。研究所の人物画の延長で描いてみました。が、家族の誰かをモデルにして場面の設定をし、研究所のように描こうとするのですが、研究所のモデルさんのようにじつとしてくれません。モデルに困りました。絵は次第に人物から静物や室内の風景に変わっていききました。

平成二年から「画室」「キャビネット」を描くようになりました。パレットに並べられた絵の具がとてもきれいでそれを活かした絵にしたいと思いました。平成八年からは「赤いミトンと食卓」というタイトルで食卓の絵を描きました。これが食卓の絵を描き始めた最初です。途中自画像や人物を入れた絵も描きました

が、ほぼ毎回食卓の絵です。

マンション暮らしですので食卓のあるダイニングと居間はワンフロアになっています。食卓は家族が集まる場所であり、団欒の場所です。居間はアトリ工兼用です。ソファーなどなく座椅子が置いてあるくらいです。家族が話をするのはもっぱら食卓です。食卓で話をして、それぞれの部屋に引込むということになります。絵を描き始めると家族の皆は心得たもので各自の部屋へ引き上げて行きます。今のマンションに引越してくる前は、部屋も狭く、こうは行かなかったのですが、十二年ほど前に今のマンションに越してきました。

食卓に土鍋を置くようになったのは「I氏の食卓」として描くようになったからです。十一年くらいになります。テーブルの上にとっかりと居座る堂々とした存在にそれを取り巻く器のこまごまとした配置、できるだけ自然に見えるようにしたいのです。普通に並べても絵にする時は邪魔な物は取ります。うまく空間を出すために器の塊にしたり、少し離れたところに器を置いたりして並べてみるので



▲ 土鍋のある食卓 (第58回展)

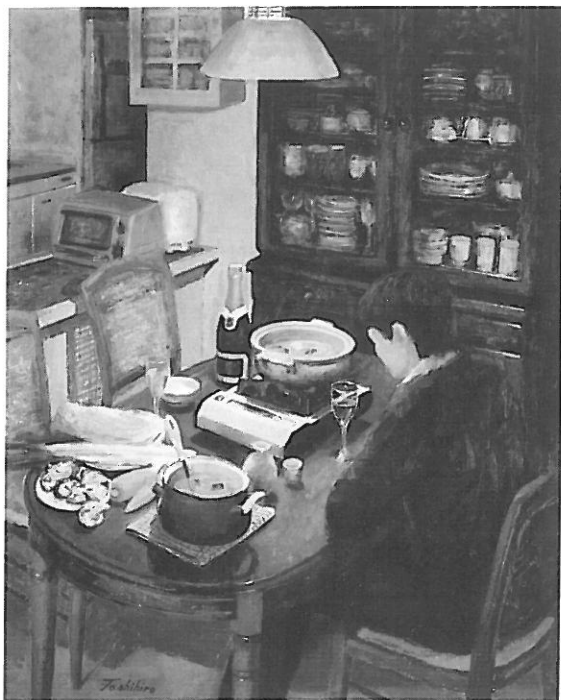
すが、実際に置いてみると、見る角度によつて違ってきます。キャンバス上での物の配置も考えなければなりません。岡目八目で他人が見るとすぐ気付くことでも、本人は気づかないことが多いのです。土鍋の面白さ、器の配置、食材の色や質、食卓を囲み交わされる会話、そんな団欒を思いながら描いています。

テーブルの上に乗せる物は普段使っているものですので食事が終わって一旦片付けた物をまた出してきて並べます。土鍋を描くようになってから鍋の材料を何にするのかいろいろ考えました。初めは海老、蟹、魚などを入れてと考えていた

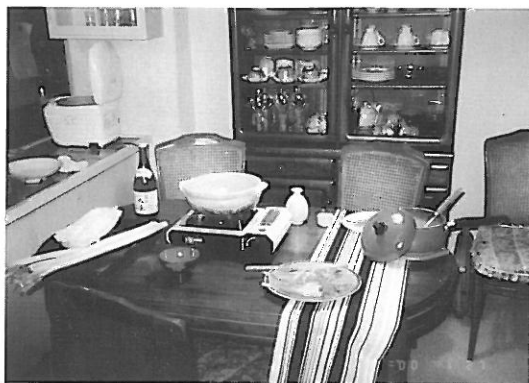
のですが、今は手に入れやすい白菜や春菊、ほうれん草、水菜、ねぎ、しいたけなどが中心になっていきます。もつという入ればなら画面構成も面白くなるのでしようが、長期間、保存が効くものやいつでも買えるものでないと準備して描くには都合が悪いのです。

霧囲気を出そうと土鍋に水を入れ、コンロの火をつけますと青白い炎がきれいに見えます。鍋の湯が沸騰して湯気も出てきますが、火をつけているときはあまり、湯気が見えませんが。火を止めると、もくもくと湯気が見えます。

冬の夜中に部屋の中は水蒸気で窓が曇



▲ I氏の食卓（その5）（第56回展）



つてしまいます。寒い夜は湯気が丁度よく暖となり部屋の中を包みます。あまり水蒸気ばかり上げていると朝、結露になつて窓の下が水浸しになります。

鍋の絵を描いていると夕食も鍋物が多くなります。寄せ鍋が多いのですが、キムチ鍋、豆乳鍋、モツ鍋などもあります。たまに湯豆腐にしたりします。

今は一人で鍋をつつきながらお酒を楽しむそんな雰囲気のある食卓が自分には合っているような場面を思いながら描いています。

「I氏の食卓」を描いてからいつも同じ構図で描いています。私なりにいろいろ



▲ 土鍋のある食卓（第62回展）

を試して描いているのですが、結局は同じ構図になります。別の絵が見たいというリクエストをいただくことがあります。自分でもそれは感じています。

食卓も代替わりをしました。椅子も変わりました。食卓の上に置く簡易コンロも代替わりをしました。テーブルクロスを変えると絵の雰囲気が変わります。

食卓の絵は一回一回その時の状況が違つて、描いている本人にとつては思ひ出の作品になっています。

食卓の絵は子供の成長とともにありませんでした。子供が独立して家から出て行くようになると、また、次の展開があるので

はと思つていきます。

今まで身近なものを描いてきたのはいつても現場を見ることができるといふ点があるからです。頭の中で組み合わせて構想画のように描いたり、写真を見て描いたりしても何かが違ってくるのです。これからも現場にこだわつて描いていきたいと思つています。